

体系防除でサトイモ上物収量を確保しよう

病害虫研究担当 小巻康平

県内のサトイモ産地で2019年以降サトイモ疫病が多発して問題となったことから、本県の気候および品種に適した防除技術の開発に取り組みました。本病が発生しやすい気象条件は日平均気温20～25℃、湿度90%以上です。この気象条件に加えて、株あたり葉枚数が20枚程度に達すると発病リスクが高まることがわかりました。対策方法を検討した結果、8月中旬と9月上旬に上述の気象条件に達した前後に、本病に卓効を示す薬剤を散布することで高い防除効果が得られることがわかりました。

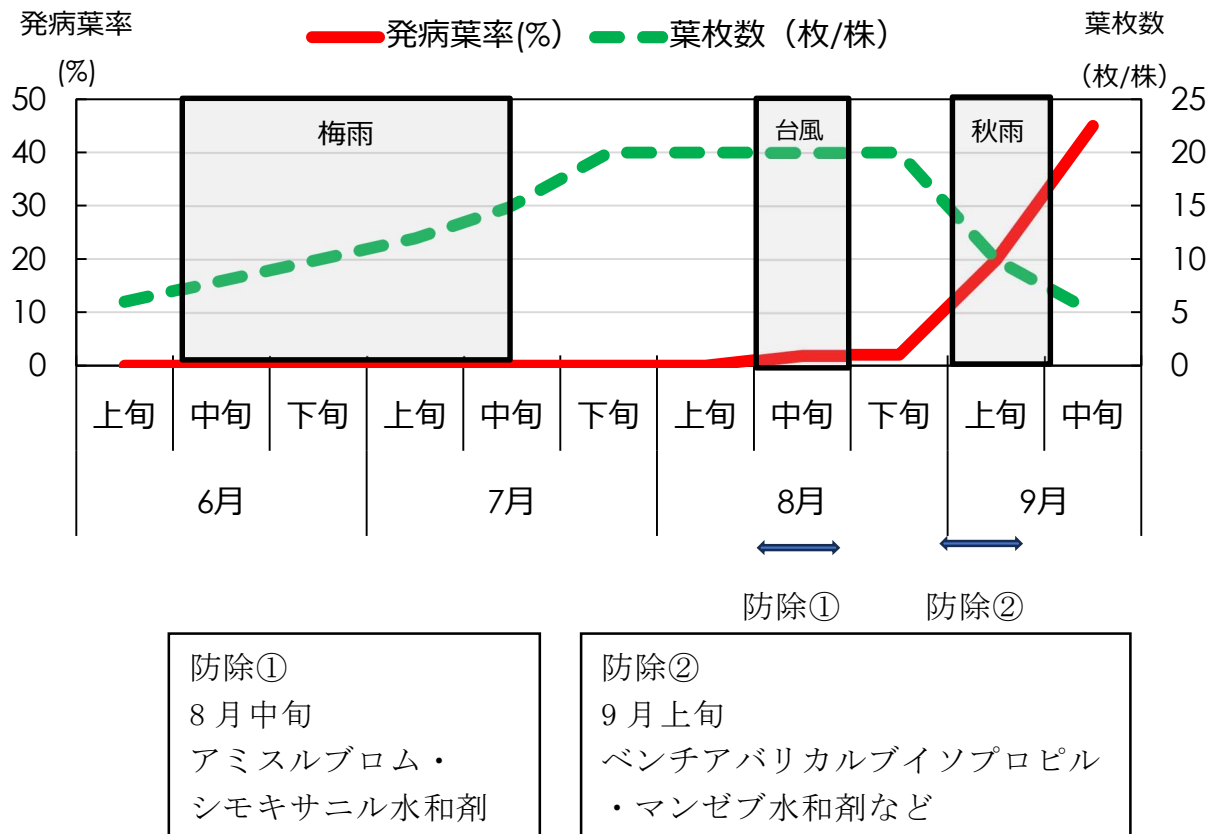


図1 県内における疫病の発病モデル

網掛け部分は発病に好適な気象が観察されやすい期間です。

県内では8月中旬の台風などの後に発病が始まるが多いため、アミスブルーム・シモキサニル水和剤を散布しましょう。9月上旬も秋雨によって発病しやすいため、ベンチアバリカルブイソプロピル・マンゼブ水和剤などを適宜散布しましょう。

より詳しい内容はサトイモ疫病防除マニュアルをご覧ください→

